

令和3年度 千葉県立佐倉高等学校 学校目標及び自己評価

アンケートの回答率は、無回答や四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。											
領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価・授業評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員、保は保護者、生は生徒、授は授業評価、地は地域アンケート)		アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)		改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果
						肯定的 回答	否定的 回答				
総合				生1	佐倉高校に入学して良かったと思う。	94.5	5.5	学習指導、生徒指導、キャリア教育などで概ね、生徒・保護者の入学への満足度は高い。		生徒・保護者地域の満足度が限りなく100%に近づけるよう下記の改善方策を遂行する。	(案)改善策のとおりでよい。
				保1	佐倉高校に入学させて良かったと思う。	98.4	1.2				
学校経営	1 新型コロナウイルス感染症の防止対策をはじめ、施設・用具の安全管理を徹底し、生徒・教職員及びその家族等の命と健康及び安全を守る。 2 教職員間でのコミュニケーションの充実を図り、明るく楽しい職場環境づくりと働き方改革に向けた仕組づくり・共通理解に取り組む。また、高い倫理感や危機管理意識を保持し、不祥事・不適切指導ゼロを徹底する。	①あらゆる教育活動の場面で基本的な感染防止対策（手洗い・マスクの着用・3密の回避等）を徹底するとともに、定期的な学校安全点検・修繕を行う。	①生徒・保護者・職員による評価アンケートの肯定的意見が90%以上であること	生28	学校は、新型コロナウイルス感染症に対する対策を十分にとっている。	92.9	7.0	換気、消毒、マスクの着用及び密の回避の徹底、教育活動の実施方法の見直し、健康観察の習慣化、校内放送による昼食時の呼びかけなどにより、県内において感染拡大がピークに達した時期においても、本校内での集団感染を防止することができた。学校からの要請に対し、生徒・保護者・職員が真摯に対応した結果であると分析する。施設面については経年劣化により、改善が難しい面がある。生徒への健康・安全に関する指導は、教職員間で連携し適切な指導が行われている。アンケート項目にはないが、全校体制で学校安全点検を実施している。危険箇所、破損箇所等については、速やかに改修した。		昨今のオミクロン株の感染力の強さの念頭に、気を緩めることなく、絶対に本校から集団感染を引き起こさないという強い危機意識のもと感染症対策を維持していく。安全点検においては、引き続き年間3回の点検を実施し、破損箇所等、指摘があった箇所についてはスピード感をもって改善していけるよう心がける。校舎の老朽化により、安全面・衛生面を危惧する声が多い。できることから最善を尽くし、改善へとつなげていく。	(案)改善策のとおりでよい。
				保17	生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われている。	95.2	4.1				
				保22	学校は、新型コロナウイルス感染症に対する対策を十分にとっている。	95.2	4.4				
				職23	学校は、新型コロナウイルス感染症に対する対策を十分にとっている。	100.0	0.0				
		②教職員間のコミュニケーションを充実させるとともに、日常業務について危機管理の視点から自己点検をする機会を設けるとともに、不祥事防止に向けて、効果的な職員研修を実施する。	②職員による評価アンケートの結果及びホームページの実施状況の精査	職9	私は、学校の教育課題について、日ごろ教職員間でよく話し合っている。	90.3	9.7	学校諸課題に対し、複数での対応、学年間・分掌間での情報共有が日常化し、連携は深まっている。また、主任・管理職への連絡・報告が徹底され、諸問題に組織で対応する風潮ができあがっている。綱紀の肅正に関しては、県内において後を絶たない教職員の不祥事を受け、不祥事根絶のための動画を見たり、自己分析シートを記入したりすることにより、襟を正す機会が増えた。何よりも職員個人が高い倫理感を持ち、危機意識を高めていることで、本校における不祥事ゼロへとつなげることができた。		様々な機会をとおし、自己点検・研修を継続し、本校からは不祥事を絶対に起こさない。不祥事防止については何よりも職員個々の意識に因るものが大きいため、引き続き自らを律し、職員間でのコミュニケーションを充実させていく。ストレスを抱える教員に対しては、互いに支援し合う体制・雰囲気づくりを推進し、組織的に業務を遂行できる職場にしていく。	(案)改善策のとおりでよい。
				職14	私は、他の職員と協力して、日常の教育活動に当たっている。	98.6	1.4				
				職18	ホームルーム活動を主とした学級経営の点検・改善に、学年と学校の全体で取り組んでいる。	90.3	8.3				
		③ホームページの更新頻度を上げ、教育活動の成果を定期的に発信する。	③生徒・保護者・地域による評価アンケートの結果及びホームページの掲載内容と更新状況の確認（月5回以上の更新）	生25	私は、学校のホームページをよく活用している。	23.6	76.3	コロナ禍が続き、様々な教育活動は制限されたものの、昨年度に比して、感染症対策を講じた上で多くの教育活動を行うことができた。SSH事業、探究活動、生徒会行事、部活動など、本校の特色・生徒の活躍を外部に発信する機会には恵まれたが、ホームページの定期的な更新が行われたとは言えない。保護者面談等において、ホームページ記事が古いという指摘もいただき、改善が要する。		ホームページを中心とした広報活動について、教職員に過度な負担をかけることなく、持続可能な業務を遂行できるように、担当部署を中心に改善策を模索していく。	(案)改善策のとおりでよい。
				保20	学校は、ホームページ等により情報発信を適切に行っている。	89.2	10.6				
				地3	佐倉高校は、地域への広報活動に努力している。	65.0	15.0				
		④部活動の指導時間が超過勤務の多くを占める現状から、部活動ガイドラインにそった形で部指導時間の短縮・効率化を促し、働き方の改善を図る。また、月ごとの勤務時間調査を精査し、超過勤務者に業務の手順の改善を促す。	④保護者・職員による評価アンケートの結果及び勤務時間調査による実態把握と適切な面接等の実施	保23	学校は、生徒の「適切な休養時間の確保」や職員の「働き方改革」を踏まえ、課外活動の時間や休日の設定を適切に行っている。	89.5	9.8	出退勤時間を現システムにより管理するようになって約2年が経過した。月ごとの平均残業時間の推移を資料として衛生委員会などでも現状を把握するとともに、改善策を探った。残業時間は部活動指導に費やす時間と密接に関係しており、部活動が自粛された月は平均残業時間が少ないことがわかった。また、休日における部活動指導が残業時間の大きな要因となっていることもわかった。日常の業務においては、職員アンケートの24の結果が示すように、業務の平準化・分業化が進んでいると感じている職員は半数を下回り、やはり業務の負担の偏り、人員の不足を感じている職員は多い。コロナ禍を機に業務の短縮につながった好事例としてTeamsの活用による朝会時間の短縮が挙げられる。		引き続き、部活動ガイドラインに基づいた適切な部活動指導を行うとともに、顧問間で連携して業務の縮減に努める。また、各分掌・学年において主任を中心に業務の分業化を進め、周囲から積極的な支援を行える雰囲気づくりを推進する。今年度、Teamsによる朝会が業務短縮につながったように、ICTの利用により働き方改革につながるものや、創意工夫により働き方改革につながるものは企画委員会等を通して積極的に取り入れ、改善へと繋げる。	(案)改善策のとおりでよい。
				職19	私は、顧問どうして連絡・協力し合い、部活動指導に当たっている。	88.9	9.7				
				職24	学校は、「働き方改革」推進を踏まえた対応（業務の平準化・分業化等）に努めている。	47.2	52.8				
				職25	私は、「働き方」を考えて、残業時間の縮減に努めている。	81.9	18.1				
学習指導	教科指導や探究学習指導の質的向上と進学指導重点校として第一志望合格を保証する現役主義の進路指導の充実のもと学力向上を図る。	①分掌・学年・教科の連携を強化し、進学指導重点校・SSH指定校・SGHネットワーク参画校・英語教育拠点校として取組の質的向上を図る。 ②ICTの効果的な活用等により、生徒の知的好奇心を一層喚起するとともに、主体的・協働的に学びを深めていくことができる授業を実践し、授業評価アンケートの実施等により、満足度を検証する。	①②・生徒・保護者による評価アンケートにおいて、肯定的意見が80%以上であること。 ・学びの基礎診断等による経年変化の分析。 ・合格、進学実績、当初の進路希望調査の分析。	生8	私は授業内容に興味関心がわいている。	88.2	11.6	進学指導重点校として授業の満足度において好結果を得ることは最優先課題の一つである。教員個人が創意と工夫により、生徒の学習意欲を喚起する魅力ある授業を展開しており、92%以上の生徒が授業を理解しやすいと答えるなどの好結果が得られ、及第点と判断する。進学実績については、昨年度初めて国公立の現役合格者が100名に達し、上昇傾向が続いている。探究学習においては、先進的な取組を継続し、SSH事業を中心として主体的で協働的な学習を推し進めることができ、成果を上げることができた。コロナ禍により校内外での活動が制約を受ける中、探究学習部を中心にアイデアを創出し、計画的に探究学習を進めることができた。また、コロナ禍により中断している国際交流事業については、海外現地校とのオンラインによる交流などを行うことにより、互いの関係性を維持している。Wifiの整備が進んでことでICT機器の利用した協働学習を取り入れる教員も増えつつある。ICTの持つ利便性を生かし、個々の考えや意見の短時間での共有、学習課題の配信、授業に係る助言や指示、視覚に訴える授業、発信力の強化が効果的に行われ、生徒の学びの幅を広げている。授業についての生徒の満足度が、保護者による高評価にもつながっていると考ええる。		生徒が自分自身で学びを振り返るための評価の工夫を各教科・科目の特性に合わせて充実させるとともに、生徒の知的好奇心を一層喚起する質の高い授業を展開できるよう工夫する。令和4年度生からは新しい学習評価のもと、引き続き、各教科で連携を図りながら研修を重ね、魅力ある授業づくりに取り組んでいく。また、新学習用のネットワークが開設されることに伴い、BYODの推進を中心としたICT機器の利活用が加速することになる。学習効果につながる利用方法を各教科で検討し、十分な満足度が得られるよう引き続き各教科で研鑽を深めていく。また、職員間での連携を図りながら、ICT機器の利用方法、効果的な使用方法について情報共有し、組織的に授業力向上に向けて取り組む。	(案)改善策のとおりでよい。
				生9	私は、授業に集中し、頭脳を活発に働かせている。	86.3	13.7				
				生5	先生方の説明する内容は分りやすく、理解しやすい。	92.6	7.4				
				生11	先生方は、授業内容・展開の仕方・教材・教え方を工夫している。	93.5	6.4				
				生26	先生方は、ICT機器やGoogle Classroom等を効果的に授業に活用している。	87.7	12.1				
				保6	授業を通して、生徒の学力は着実に向上している。	92.2	7.2				
				保7	授業はよく工夫されていて、わかりやすいと思う。	87.8	9.2				
		③相互の授業を観察し、研修できる期間を年2回以上設け、質の高い指導方法や評価方法を研究する。	③授業研修週間のアンケートによる研修効果の検証	職12	生徒の学力を着実に向上させる効果的な授業ができている。	97.2	1.4	校内授業研修週間を年2回設け、相互参観・相互評価を行うとともに、研究授業等への積極的な参観や、英語拠点校公開授業において外部に授業を公開し協議会等で研修を深めた。ベテラン、若手の枠を超えて互いの授業から良い点を参考にし、自らの授業の改善を図った。生徒が授業について「内容・展開の仕方・教材・教え方の工夫」について概ね94%の生徒が満足していることから、目標は概ね達成できたものと捉えている。		引き続き、教員の校内授業研修週間を年に2回設け、年間行事予定に位置づける。アンケート結果から見てもわかるように、職員の授業改善に対する意識は高いため、引き続き、研鑽を積み、生徒の満足度が100%に近づけるようにする。	(案)改善策のとおりでよい。
				職13	職員間には、互いの授業を参考にして授業を改善する雰囲気がある。	94.4	5.6				

